

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第28週（7月11日～7月17日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 過去最高の報告数」

第28週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,453例であり、前週比6.8%増であった。定点あたり報告数の第1位はRSウイルス感染症で以下、感染性胃腸炎、手足口病、咽頭結膜熱、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ6.49、4.26、0.48、0.38、0.33である。

RSウイルス感染症は前週比50%増の1,272例で、大阪市北部16.14、大阪市西部10.60、豊能6.65、北河内6.52、泉州6.45であり、統計を開始して以降最も多かった2021年のピーク（第21週）の報告数を上回った。

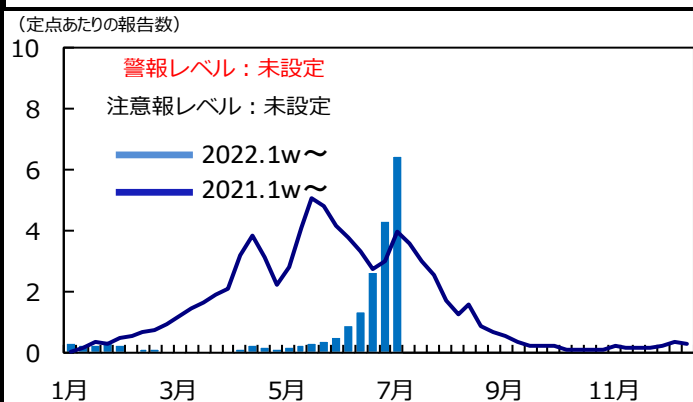
感染性胃腸炎は18%減の834例で、南河内9.63、中河内6.75、三島5.71である。

手足口病は10%減の95例で、大阪市北部1.00、三島0.76、堺市0.74であった。

咽頭結膜熱は28%減の74例で、泉州0.75、三島0.41、大阪市西部0.40である。

インフルエンザは341%増の75例で、10歳から29歳までで全体の53%を占めていた。定点あたり報告数は0.25で、中河内0.71、泉州0.45、大阪市南部0.33である。来週以降の動向を注視する必要がある。

RSウイルス感染症



感染性胃腸炎

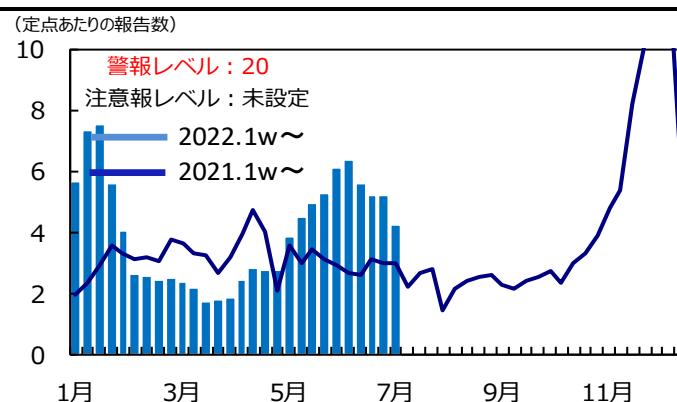


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第28週7月11日～7月17日）

第28週の順位	第27週の順位	感染症	2022年 第28週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第28週の 定点あたり 報告数	2022年第28週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	2	RSウイルス感染症	6.49	50%増	3.95	1歳_31%
2	1	感染性胃腸炎	4.26	18%減	2.92	1歳_17%
3	3	手足口病	0.48	10%減	0.03	1歳, 2歳_25%
4	5	咽頭結膜熱	0.38	28%減	0.45	1歳_39%
5	6	突発性発しん	0.33	8%増	0.34	1歳_66%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2021/22年シーズンのインフルエンザ集計は第12週で終了しました。

第28週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

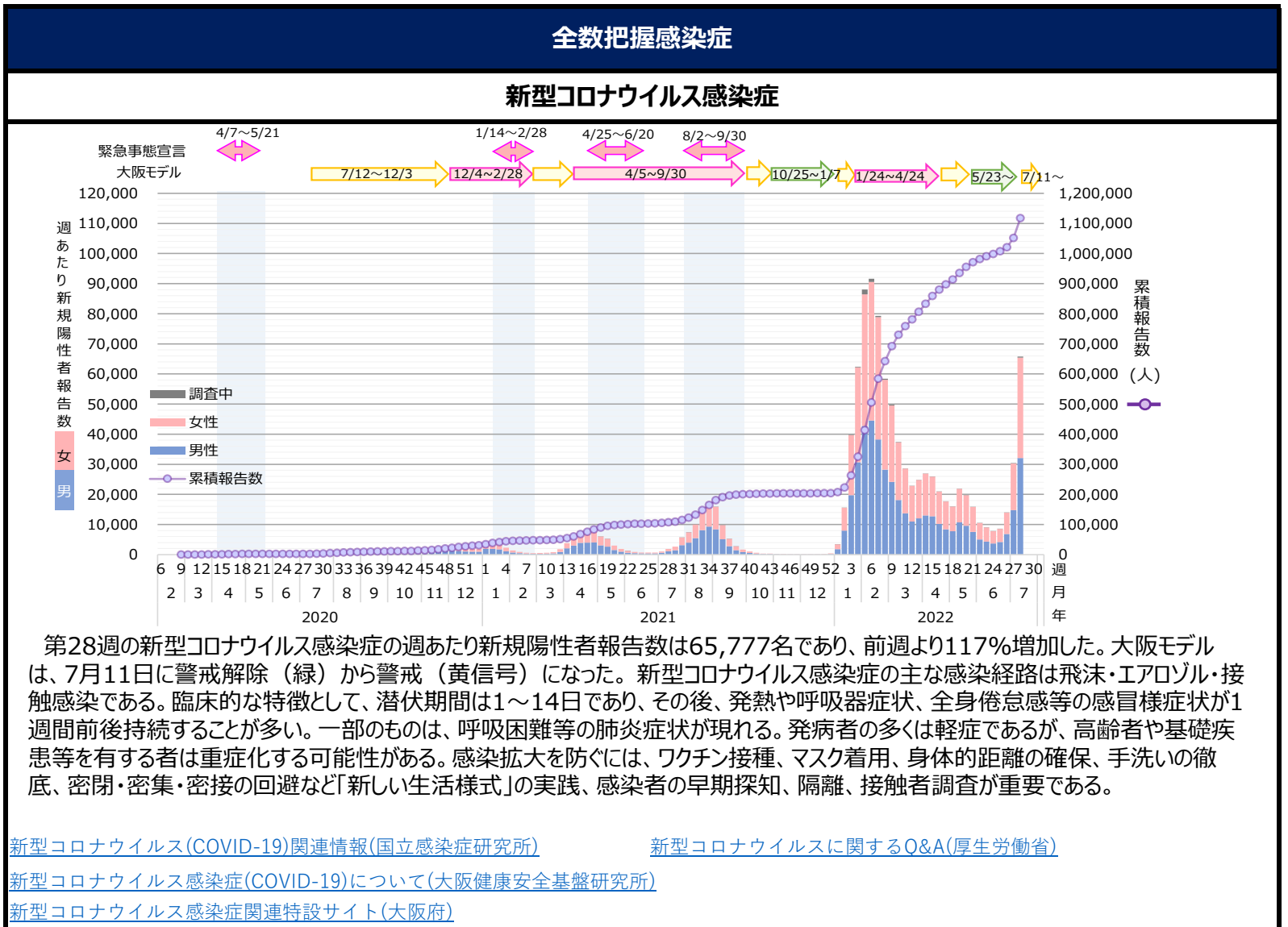


表2. 大阪府全数報告数（2022年 第28週7月11日～7月17日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症	2	1							1	53
4類感染症 オウム病 レジオネラ症(肺炎型)	1								1	1
	1			1						48
5類感染症 梅毒 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	13			1				1	11	766
	1								1	12
新型インフルエンザ等感染症 新型コロナウイルス感染症	65,777	2020年1月以降累計								1,116,992
結核 (2022年5月分)	結核 新登録患者数：96名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 32名) (府内累積報告数 435名、内 肺・喀痰塗抹陽性 156名)									

(2022年7月19日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。